

毛澤東選集

第三卷



三一書房

一九五七年十一月二十五日 発行

毛澤東選集 第三卷

定価 七五〇円

編者 毛澤東選集刊行会

発行者 田畑弘

検印
廃止

三一書房

印刷所 京都市下京区西洞院七条下ル
内外印刷株式会社

製本所 京都市下京区油小路正面
株式会社 古川製本所

発行所 株式会社 三一書房

京都市左京区北白川西平井町二
電話吉田⑦三一〇〇番
電報代田⑦三一〇〇番
東京千代田区神保町一ノ三番
電話東京八四一八五〇番
電報東京八四一八五〇番

落丁・乱丁本はおとりかえいたしません

凡 例

一、これまでの本選集日本語訳には、「三一書房刊行青表紙六冊本」と「三一新書版」七冊本（いずれも原本第三冊まで）があり、青表紙B6版六冊本のはじめの二冊には、中国原本になかったものを、日本の読者の参考にと考え、附録としてのせておいた。しかし、その後、中共毛澤東選集出版委員会の意見にしたがい、その方針をあらためて、原本どおりにした。「三一新書版」および本版は原本第二版によっており、原本第二版は第一版にくらべて、各篇の排列が多少ことになっており、また、著者によって多少訂正されている部分がある。なお、毛澤東選集出版委員会の註釈にも多少の訂正や削除があり、新しい註も一、二加えられている。新書版および本版はこれらの点をすべて原本第二版によって訂正してある。原本第四巻がちかく出版されるので、本版にはこれを加える。

一、はじめの旧訳本には誤植、誤訳、不適訳のところがかなりあり、不十分なものであった。新書版では根本的な改訳をおこなったが、なお、誤植がかなりあった。本版はこの点を改めるとともに、部分的に訳の調子をあらためた。

一、改訳にあたっては、中国外文出版社版英語分冊本、ロシア語訳本、ロンドン英訳本を参照した。部分的にはドイツ語訳本をも参照した。これら語本で多少解釈を異にしているところについては、いずれにもかたよらず、併せ参照しながら、われわれ独自の理解で訳出した。

一、段落を原本どおりにすると、改行がすくなく、読みづらいので、改行を多くするために、段落のきりかたはロシア語

訳本にしたがった。この点では、英訳本も原本どおりにせず、改行を多くしている。

一、註のつけかたについては、毛澤東選集出版委員会の原註は〔一〕、〔二〕……で各篇の論文の終りに原本どおりにいれ、訳註は〔1〕、〔2〕……で各段落の終りにいれた。なお、理解を容易にするため、訳者が補ったことは、そのことばのつぎに〔……〕でいれた。文中にある（……）括弧内のことは原著者の補足である。

一、読者ならびに各方面の権威者の方々の御援助により、旧訳にあった不備や誤訳は著しく改められたものと信じているが、なお、今後とも、この偉大な理論と経験の豊庫を正しく日本国民につたえ、日本国民のものにするために、不備な点をあらためるよう努力してゆきたい。ここに援助と叱正を切望するしだいである。

一九五七年九月

日本毛澤東選集刊行会

目次

抗日戦争の時期（つづき）

国際情勢についての新華日報記者にたいする談話	二
中央社、掃蕩社、新民報の三記者との談話	一九
ソ同盟の利益と人類の利益との一致	二七
『共産黨員』発刊の辞	三〇
当面の情勢と党の任務	三五
大量に知識人を吸収せよ	三九
中国革命と中国共産党	四三
第一章 中国 社会	四三
第一節 中華民族	四四
第二節 古代の封建社会	四六
第三節 現代の植民地的・半植民地的・半封建的な社会	四六

第二章 中国革命……………五

第一節 百年來の革命運動……………五

第二節 中国革命の對象……………六

第三節 中国革命の任務……………八

第四節 中国革命の原動力……………八

一、地主階級……………八

二、ブルジョアジー……………八

三、農民以外のさまざまな型の小ブルジョアジー……………八

四、農民階級……………八

五、プロレタリアート……………八

六、浮浪者……………九

第五節 中国革命の性格……………九

第六節 中国革命の前途……………九

第七節 中国革命の二重の任務と中国共産党……………九

スターリンは中国人民の友である……………一〇

ベチューンを記念する……………一〇

新民主主義論……………一一

一、中国はどこへゆく……………一一

二、われわれは新中国を建設したい……………一二

三、中国の歴史的特質……………一二

四、中国革命は世界革命の一部分である……………	二六
五、新民主主義の政治……………	二三
六、新民主主義の経済……………	一九
七、ブルジョア独裁を反駁する……………	二三
八、「左」翼空論主義を反駁する……………	二六
九、頑固派を反駁する……………	三九
十、旧三民主義と新三民主義……………	四三
十一、新民主主義の文化……………	五〇
十二、中国文化革命の歴史的特質……………	五二
十三、四つの時期……………	五五
十四、文化の性質の問題についての偏向……………	六六
十五、民族的・科学的・大衆的な文化……………	六四
投降の危険を克服し、時局の好転に努力せよ……………	七一
すべての抗日勢力を結集し、反共頑固派とたたかえ……………	七五
国民党への十項目の要求……………	八三
『中国工人』発刊の辞……………	九一
団結と進歩を強調すべきである……………	九五

新民主主義的憲政……………一九九

抗日根拠地の政權問題……………二三

現在の抗日統一戦線における戦術の問題……………二七

抗日勢力を自由にのぼし、反共頑固派の攻撃に抵抗せよ……………三九

徹底的に団結せよ……………三七

政策について……………二四一

安徽省南部事変のために発表した命令と談話……………二五三

中国共産党中央革命軍事委員会命令……………二五三

中国共産党中央革命軍事委員会スポークスマンの新華社記者への談話……………二五四

第二回目の反共運動のより上げを撃退した後の情勢……………二六三

第二次反共運動のより上げの撃退についての総括……………二六七

『農村調査』のはしがきとあとがき……………二七五

はしがき……………二七五

あとがき……………二七九

われわれの学習を改革せよ……………二八三

極東ミュンヘンの陰謀を暴露せよ.....	二五五
反ファシスト国際統一戦線について.....	二五九
陝西・甘肅・寧夏辺区参議会における演説.....	三〇一
党の活動態度をなおせ.....	三〇七
党八股に反対せよ.....	三二

抗日戦争の時期
(つづき)

国際情勢についての新華日報記者にたいする談話

(一九三九年九月一日)

記者の間〔以下単に問と略す〕 ソ独相互不可侵協定の締結はどういう意義をもっていますか？

毛澤東の答〔以下単に答と略す〕 ソ独相互不可侵協定はソ同盟の社会主義の力が増大したことでソ同盟政府が

平和政策をとったこととの結果です。この協定は、チェンバレン、ダラディエなど国際反動ブルジョアジーによるソ独戦争挑発の陰謀をうちやぶり、ソ同盟にたいするドイツ、イタリア、日本の反共ブロックの包囲をうちやぶり、ソ独両国間の平和をかため、ソ同盟の社会主義建設の発展を保証しました。アジアにおいては、日本に打撃をあたえ、中国を援助し、中国の抗戦派の地位をかため、中国の投降派に打撃をあたえました。それは、これらのすべての点で、全世界人民がその自由解放をたたかいるための基礎をすえました。これがソ独相互不可侵協定の全政治的な意義です。

問 人びとはソ独相互不可侵協定が英仏ソ交渉の決裂の結果であることを、まだはっきりと理解しておらず、反対に、英仏ソ交渉の決裂はソ独協定の結果であると考えています。英仏ソ交渉がなぜ成功しなかったかを、説明してください。

答

英仏ソ三国の交渉が成功しなかったのは、まったく、英・仏政府に誠意がなかったからです。近年来、世界の反動ブルジョアジー、まず第一に英・仏の反動ブルジョアジーは、ドイツ、イタリア、日本のファシストの侵略にたいして、一貫して反動的な政策、すなわち、いわゆる「不干渉」政策をとってきました。この政策の目的は、侵略戦争をゆるし、自分はそこから漁夫の利をしめようとするところにあります。だから、英仏は、真の反侵略戦線を組織するというソ同盟がこれまで提起してきた提案を根本から拒絶して「不干渉」の立場をとり、ドイツ、イタリア、日本の侵略をゆるし、自分がかたわらに立ってそれをながめていたのです。その目的は、戦争当事国の双方をたがい消耗させたあとで、干渉にのりだそうとすることにあります。この反動政策を遂行する過程で、中国の半分が犠牲にされて日本にあたえられ、全アビシニア、全スペイン、全オーストリア、全チエコスロヴァキアが犠牲にされてドイツ、イタリアにあたえられたのです。^(二)こんどはまた、ソ同盟を犠牲にしようと考えているのです。この陰謀は、こんどの英仏ソ三国の交渉にあたって、すでに、はっきりと暴露されたのです。この交渉は、四月十五日から八月二十三日まで四カ月余にわたっておこなわれ、ソ同盟のがわではあらゆる忍耐をつくしたのです。英仏は、平等互恵の原則には、終始、賛成せず、ソ同盟にこれら両国の安全を保証するよう要求するだけで、これら両国はソ同盟の安全を保証しようとせず、バルト海の諸小国の安全を保証しようとして、ドイツに進軍の突破口をひらいてやり、しかもソ同盟の軍隊にはポーランドを通過して侵略者としたかうことをゆるさなかったのです。これが交渉決裂の原因です。この間、ドイツは反ソ政策を停止することに同意し、いわゆる「防共協定」^(三)を放棄することに同意し、ソ同盟の辺境地方を侵略しないことを承認したのです。ソ独相互不可侵協定は、こうして成立したのです。国際反動派、まず第一に英・仏反動派のこのような「不干渉」政策は、「山上に坐して虎のたたかうのをながめる」政策であり、まったく人を傷つけて、おのれの利益

をはかる帝国主義の政策です。それは、チェンバレンの登場によってはいま、昨年九月のミュンヘン協定にいたって頂点にたっし、今回の英仏ソ交渉にいたって最終的に破産したものです。こんごの期間は、英仏と独伊との二大帝国主義集団の直接衝突の局面とならざるをえません。私は一九三八年十月の中国共産党第六期中央委員会第六回総会でつぎのように述べました。「石をもちあげて自分の脚をうつ、これが、チェンバレン政策の必然の結果である」と。チェンバレンは、人を傷つける目的ではじめながら、おのれを傷つける結果におわたのです。これがすべての反動政策の発展法則です。

問 あなたの見られるところでは、当面の時局はどのように発展するでしょうか？

答 当面の国際政局はすでに新しい情勢のなかにおかれています。すでにはじまっている第二次帝国主義戦争の一面的な状態、つまり「不干渉」政策から生じた一方の進攻と他方の坐視という局面は、ヨーロッパ方面についていうかぎり、こんご当然、全面的な戦争の勃発によってとってかわられるでしょう。

第二次帝国主義戦争はすでに新しい段階にすすんでいます。

ヨーロッパ方面では、独伊の帝国主義集団と、英仏の帝国主義集団とのあいだには、植民地人民にたいする支配権争奪のための帝国主義大戦が眼前にせまっています。戦争中は、人民をあざむき世論を動員するために、戦争当事国の双方が、ともに恥じることなく、自分のほうは正義の戦争であり、相手のほうは不正義の戦争である、と宣伝するでしょう。しかし、それは欺瞞にすぎません。なぜなら、双方の目的はみな、帝国主義的なものであり、植民地、半植民地および勢力範囲にたいする支配権の争奪のためであり、略奪的な戦争だからです。現在では、それはポーランドの争奪、バルカン半島と地中海沿岸の争奪の戦争を意味しております。このような戦争はまったく正義のものではありません。世界中では、非略奪的な解放のための戦争だけが正義の戦争です。共

産党はどの略奪戦争をもけつして支持しません。共産党は、すべての正義の非略奪的な、解放のための戦争にたいしては、勇敢に支持し、また闘争の最前線に立つでしょう。第二インタナショナル所属の社会民主主義諸政党はチェンバレン、ドラディエの威嚇、誘惑によって分化をおこしており、一部の上層反動分子は第一次大戦のときの失敗の道をふたたびあゆんでおり、新しい帝国主義戦争に賛成しようとしています。だが、他の一部のものは、共産党といっしょになり、反戦・反ファシストの人民戦線をつくろうとしています。現在、チェンバレン、ドラディエは、ドイツ、イタリアに見なつて、一步一步反動化し、戦争動員を利用して、国家組織をファシズム化し、経済組織を戦時体制化しております。要するに、二大帝国主義集団はいままさに戦争準備に熱狂しており、大量殺戮の危険が、幾百万、幾千万人民の頭上にのしかかっています。このような事態は、うたがうまでもなく、広範な人民の反抗運動を激化させるでしょう。独伊においても、英仏においても、ヨーロッパや世界のその他の地域においても、もし、人民が帝国主義の砲弾になることをのぞまないならば、きっと彼らは立ちあがり、いろいろな方法で帝国主義戦争に反対するでしょう。

資本主義世界では、上述の二大集団のほかに、なお第三集団があります。それはアメリカを首領とする中南米の多くの国々をふくむ集団です。この集団は、自己の利益のために、しばらくは、なお戦争にころがりこむことはないでしょう。アメリカ帝国主義は、中立の名目で、しばらくは戦争のどちらの一方にも参加せずにいて、将来、資本主義世界の指導的地位をうばいとるためにのりだしてくるでしょう。アメリカ・ブルジョアジーが、しばらくは、まだ、国内において民主主義政治と平時の経済生活を廃止しようとしていないことは、世界の平和運動にとって有益です。

日本帝国主義はソ独協定によって重大な打撃をこうむっており、その前途はさらに困難をくわえるでしょう。